

令和2年度 家庭教育支援プログラム指導者研修② 実施報告

実施日：令和2年6月16日（火）

新型コロナウイルス感染防止のため、「3密」回避対策、受付時の健康チェック及び検温を行い、実施しました。

【午前の研修】

○ 事例発表「プログラムの実際」

県東親育ちスマイルネット那珂川支部「ぱれっと」

那珂川町教育委員会事務局生涯学習課 係長兼社会教育主事 佐藤 崇 氏



那珂川町を中心に家庭教育支援に携わっている「ぱれっと」の皆様を講師に迎え、事例発表を行いました。

事例発表では「県東親育ちスマイルネット」と「ぱれっと」の紹介、団体としての目的と活動内容、今後の活動目標などに関する発表がありました。

また、親学習プログラムを実施する際に必要な依頼者側との打合せ、メンバーによるプログラム構成に関する話合いの内容や実施の様子など具体的な内容を聴くことで、受講者は団体の活動の様子や実際に実施される親学習プログラムについて学ぶことができました。

事例発表後は受講者と意見交換を行い、他団体や行政の立場からも意見を聞くことができ、より理解を深めることができました。

○ 演習「親学習プログラムの体験」

県東親育ちスマイルネット那珂川支部「ぱれっと」

那珂川町教育委員会事務局生涯学習課 係長兼社会教育主事 佐藤 崇 氏

演習では親学習プログラムアレンジ版「ほめられるって、どんな気持ち？（2つのささやき）」を体験しました。

コロナ禍の状況で演習を実施できるよう、演習前に検討を重ね、様々な工夫やアイデアをもとに実施しました。ホワイトボードを使用しての意見交換、各研修室に肩幅ほどのサークルを設定し、サークル内での意見発表など、受講者同士の話し合いが難しい状況を踏まえた演習でした。このような中、受講者はプログラムを体験し、ファシリテーターとしてプログラムをどう進めるのか、受講者とどう関わるのかなど多くのポイントを学びました。また、プログラム実施上の留意点や参加型学習の意義、効果、ファシリテーターの重要性なども理解することができました。



【午後の研修】

○ 演習「学びの効果を高めるコミュニケーション」 総合教育センター職員

午前中の演習内容に触れながら、コミュニケーションに関する総論的な話

から始まり、自己紹介、聞き方、伝え方のポイントを話しました。自己紹介では、担当者がそれぞれ自己紹介を行い、その自己紹介から受け手としての受講者がどう感じたのかを全員で考えるなど、ファシリテーターに必要なコミュニケーションについて学びました。



★受講者の声（アンケートから）

- ・演習では、ファシリテーターの立場になった場合を想定し参加しました。「ぱれっと」の皆様のお陰で、心地よい雰囲気の中で、ファシリテーターのノウハウを学びました。また、自分の課題を見つける良い機会となりました。
- ・コロナ禍での演習はとても工夫されており、感心しました。「ぱれっと」の皆様に感謝です。
- ・プログラム体験は大変参考になりました。ホワイトボードの準備や長机の配置、サークルの立ち位置など3密を避ける工夫がありました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで

TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp